



経営革新による企業活性化

社団法人 中小企業診断協会 兵庫県支部

支部長 水口可保

去る6月25日大阪で近畿6支部共催による『経営革新の成功事例発表会』が行われました。全国でも初めての試みで準備不足の面もあり、種々反省点もありますが、中小企業診断士による中小企業活性化の具体例として参考にすべき点が多いので、その概要を紹介したいと思います。

発表された事例は、近畿各支部から提出された多くの優れた候補企業の中から『診断士の支援度合い』『経営革新の内容と革新性』『業績改善の効果』等々を評価したうえで、発表時間の制約もあり次の4社が選出されました。

『チルド食品の製造で売上急増』の山内製粉(株)

- ・創業大正15年9月 年商16億円(14年6月) 従業員130名
- ・従来、小麦粉・はったい粉などを製造していたが、競争が激しく、価格も低下していた。後継者(専務)が中心になって、経営革新のためチルドによるお好み焼きやたこ焼きを開発し、コンビニに販路を広げ、著しい売上拡大を実現した。更に、米粉を使った新製品づくりや新販路開拓に取り組んでいる。

『製版・印刷機のデジタル化で黒字経営に転換』した(株)大美堂印刷社

- ・創業昭和23年 年商15.5億円(14年4月) 従業員81名
- ・革新計画実施前は3期連続の赤字経営であった。SWOT分析に基づき、CTP(デジタル刷版)・デジタル印刷機・UV6色印刷機等の導入により、内製化を進め、合成紙印刷等の得意分野に特化するなどの改革を行った。その結果、売上高は減少した(17.7億円 15.5億円)が、経常利益段階で黒字に転換できた。その後、売上高は依然減少しているものの、内製化によって、むしろ収益性は向上している。

『地理情報システムに特化し高収益で上場』した(株)ドーン

- ・創業平成3年6月 年商7.5億円(14年5月) 従業員28名
- ・創業後まもなく、競争の少ない官公需向けの『地理情報システム構築用基本ソフトGeo Base』に特化し、その研究開発に専念している。その販売先は、NTT等の通信事業、東芝・日立等の電機メーカー、ソフト会社、航測・地図業者等で、その市場占

有率は50~60%に達し、経常利益率40%以上の高収益をあげている。14年6月ナスダックジャパン(現ヘラクレス)に上場し、株式を公開している。

『生花仲卸からプライダル市場に参入し収益性を改善』した(株)滋賀生花

- ・創業平成2年8月 年商1.8億円(15年3月) 従業員9名
- ・小売業の構造変化に伴って、これ迄の生花卸売の売上高が減少し、収益性も悪化していた。対応策としてブーケを中心としたプライダル市場に参入し、品揃えが豊富でコストが安いという強みを生かして、新市場の開拓と収益性の改善を進めている。

これらの事例の中で、中小企業診断士が果たした役割としては、二つのパターンがあります。

- ・その一つは当初、経営支援を行っていたが、その後、経営陣に加わり、自ずから経営改革と株式上場に取り組んだ。その関与期間は5~8年間と長期である。(大美堂印刷社・ドーン)
- ・あくまでも助言者として、革新計画の立案やその実施促進を支援した。支援期間は比較的短期間である。(山内製粉・滋賀生花)

また、経営改革の成功要因をみると、次の2点に絞られます。

自社の特色と強みを生かしたニッチな商品戦略がある。

経営者が改革をタイムリーに決断し、率先して実行している。

今回の発表事例に対する評価基準としては、実行委員会です。予め『簡単な評価表』を準備していましたが、その採点結果や講評が省略され、主観的な審査結果になったのは残念です。今後生かすべきことは、生きた経営革新の事例であり、その着眼点と取り組み方です。同時に中小企業診断士による『経営革新の動機づけ』とその計画立案・実施促進における役割です。経営革新による中小企業の活性化を促進するために中小企業診断士の益々の活躍が期待されています。

経営のヒント

“『顧客満足経営』の組織図”

副支部長 内池 滋

ほとんどの企業で作られている組織図は、戦国時代からの名残を引きずっているピラミッド型である。これは、上意を下位に伝達するには最適であるかもしれない。また、高位にあるほど権力と権威の象徴として有効であり、下位はまさに“しもじも”である。その先に顧客がある。

顧客満足経営を、真に実現しようとし、形にも示すならば、その組織図は、逆ピラミッド型でなければならない。これは、最上位に顧客・

市場があり、その最前線で働くものが偉い人である。経営者を始めとするマネジャーは、彼らが顧客サービスしやすいよう下からバックアップする。顧客の声が速やかに下に流れるようになる。これは、88年に出版された『逆さまのピラミッド』(カール・アルブレヒト著、日本能率協会刊)以前からあった思想であり表現だった。例えばイトーヨーカ堂がそれであったし、私の関与先は皆そうしている。逆ピラミッド組織図は、理屈抜きで“顧客重視思想”を示せるのである。

組織経営とISOマネジメントシステムの価値

兵庫県支部 理事
長谷川 政二



1. ISO品質、環境の登録状況

2003年3月でのISO適合事業者数の推移は、図表-1の通りである。ISO 14001環境マネジメントシステムの登録企業数の伸びに鈍化は見られないし、ISO 9000品質マネジメントシステムは依然、年間に1万件近くの登録がなされている。

2. 品質、環境の審査員としての視点

品質と環境のISOを審査する立場から経営者に聞いてみる「ISOは経営に効果がありますか？」と。多くの経営者は多額の投資決断をした手前、自身の経営判断を忌避する事は無い。某アンケートでも、ISO導入効果があった理由として「経営方針が浸透し、社員の仕事への取り組みが向上した」、「標準化やルール化で仕事の効率が向上した」と、金銭で測れない効果を揚げている。一方、原価や利益に有効かとの質問には「元々登録だけが目的であり、金銭的效果に期待していない」と言う答えが一番になっている。第3者審査と言うISOの基本運営からすると、ISOの要求事項を満たす事だけで金銭的な効果を求めることには、無理があるのは自明のことである。

3. 中小企業診断士としての視点

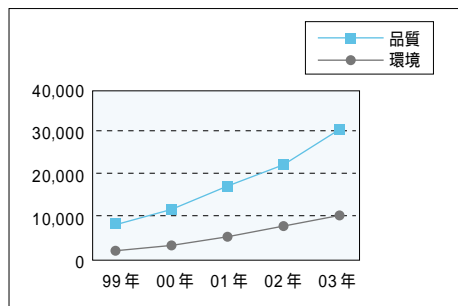
診断士として経営者に同じ質問をしてみると「登録維持費が高い」、「電気代が大幅に減るものでない」、「不良率が下がったと思えない」、「顧客が増えた訳でない」と言った、金銭効果が見えないことへの不満が、素直な声として帰ってくる。「登録するだけが目的」とはつまり、入札資格や社会的責任の獲得であるが、大企業の登録目的は概ねこれである。方や、経営理念が脆弱で、ルールが未整備な中小企業には、ISOの導入効果が明確に見られる。更に、ISO導入により財務的価値が付加されるなら鬼に金棒である。

4. ISOの本質

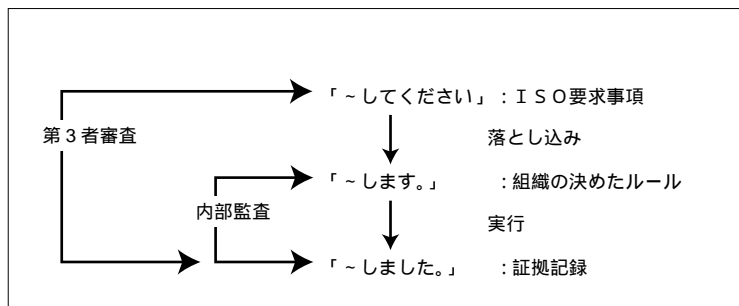
「企業発展には管理がいる」、「管理にはマネジメントシステムが有効である」、「マネジメントも多々あるが、ISOには成功実績がある」。これは「ISOの基本と用語」を要約したものである。つまり、ISOは経営管理の手段であると言うことであり、企業発展の手段としての活動である以上、品質も環境もその要素手法に過ぎない。簡単なISOの構築運用の流れを図表-2に表記するが、マネジメントシステムの本質は第3者による審査ではなく、自らルールを決め、実行し、これを自らチェックすることである。従って、要求事項を企業ルールに落としこむ時には組織の理念、実績、資源を再認識して、現実と歴史から乖離しないシステムを構築することが肝要である。

5. 企業再生手段としてのISOの価値

多くのISO審査員は、大企業の環境管理や品質管理を歴任した人達であるのが現実であり、エンドオブパイプや6でマネジメントが実行できているとは思えない。究極的には企業を発展・再生する活動であることへの理解が、審査側に求められる。一方で、企業組織に於いては第3者審査に頼ることなく、内部監査を充実させることによって顧客増加、売上増加、コスト低減、リードタイム削減等が、実践できる組織固有のシステムとすることで、ISOマネジメントシステムの価値を引き出すことが必要である。



図表-1 ISO適合事業所数の推移



図表-2 ISOの構築運用の流れ

通常総会の決定事項

第44回中小企業診断協会兵庫県支部通常総会が平成15年5月9日(金)の午後、ハーバランドの神戸市産業センターにおいて開催されました。出席者は会員約40名、加えて委任状の出状が約70名程度でした。来賓として兵庫県産業労働部商工労働局経営支援課・楠見課長および藤井課長補佐、ならびに財団法人神戸市産業振興財団・南常務理事および星見経営支援部長のご臨席を賜りました。

開会に際して、水口支部長が挨拶を行い、先年の制度変更により中小企業の自助努力が重視され、診断支援にも受益者負担(3分の1)が導入されているが何とか軌道に乗ってきたこと、しかしいまだ元気な企業は少なく、当診断協会の近畿ブロック内だけでもアクションプログラムを策定したい、また今後有望な4分野(医療、福祉、農業、観光)に力を入れたいとの意向の表明がありました。

次いで議事に移り、主に林事務局長および石川総務委員長より第一号議案(昨年度事業報告書と収支計算書)、第二号議案(本年度事業計画書案と収支予算書案)および第三号議案(兵庫県支部規約改正案)の説明を行い、質疑の後満場一致で承認され、滞りなく終了しました。

その後場所を移して恒例の懇親会が開かれ、財団法人ひょうご中小企業活性化センター・位田^{いんでん}理事長を初めとする十数名の来賓を新たにお迎えして和やかに歓談しました。また、この席で今年度の新入支部会員二名の紹介もあり、参会者からの「名刺攻め」に遭っていました。

総会で決定された本年度の事業計画は、もちろん支部会員各位へは総会議案書にて配布されていますが、「開かれた支部」として当支部がお世話になっている関係諸機関にもこの概要をお知らせし、ご理解とご協力をお願いしたいと考えます。基本的な理念としては、水口支部長の挨拶にもあったように、従来は地味な活動に終わりがちであった中小企業診断士の仕事のやり方を徐々に変えてゆき、出来るだけ表に出て活躍し、「中小企業診断士」というプロフェッショナル集団の知名度を上げたいとの意向を込めて、委員会体制により事業範囲の明確化と効率化が図られています。

まず、総務委員会は支部規定の見直し等の環境整備を行います。今総会の第三号議案もその一環となっています。

次に診断支援委員会を中心とする「兵庫県中小企業再生支援協議会」との連携業務は、当支部内池副支部長を筆頭として参画を開始しました。また支援業務受託先の開拓とこれに必要な創業支援等の商品化を計画中です。

会員研修委員会は、当委員会、否、当支部の「顔」となっている自主研究会の継続に加えて、新たにスタートした研究会を維持発展させてゆくことが計画され、診断実務研修会、診断技術向上研究会、助言技法研究会、経営法務研究会、と多彩です。たとえば「診断技術向上研究会」とはパソコン上でエクセルを使用した分析をすることにより隠れたデータを発掘(データマイニング)して診断支援に活用しようとする進歩的なものです。

広報委員会の本年度のテーマは「広報のデジタル化」と外部への情報発信の基礎固めです。ホームページアドレスも簡単化され、その内容もタイムリーなものとするとともに、「診断ひょうご」のバックナンバーも掲載するなどの工夫をしています。また協会本部へも毎月情報発信を行い、支部活動のPRをますます充実させます。

最後に、プロジェクト開発委員会の今年度のテーマは「ひょうご元気企業交流会」の発足と推進です。そのキックオフ会が6月11日に大成功裡に開催されて各種マスコミの注目を得たことは記憶に新しいところです。

以上のように今年度も従来以上に新機軸を凝らして活動を行いますので、関係諸機関各位ならびに支部会員各位のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

(文：上住好章)

〔ひょうご元気企業交流会 第1回キックオフ大会〕

開催される

「ひょうご元気企業交流会 第1回キックオフ大会」が、去る6月11日に神戸市産業振興センターにおいて開催されました。本大会は、(社)中小企業診断協会兵庫県支部プロジェクト開発委員会のプロジェクト組織、ひょうごオンリーワン総研が主宰したもので、(社)中小企業診断協会兵庫県支部の主催、兵庫県中小企業団体中央会の共催、(財)ひょうご中小企業活性化センター・兵庫県商工会連合会・神戸商工会議所・(財)神戸市産業振興財団の後援を得て行なわれました。

ひょうごオンリーワン総研は、「兵庫県内の - 元気企業、オンリーワン企業および団体づくり - を支援すること」を運営理念とし、「元気プロジェクト1000の開発とオンリーワン企業の育成」をスローガンに、会員相互の自主性と協調性に基づいて活動しております。

主な事業は、

- ① 「ひょうご元気企業交流会」の開催、運営
- ② 元気企業に向けてのセミナー(元気企業プロジェクト開発塾)の開催および研修、などです。

今般第1回目の事業として、「ひょうご元気企業交流会 第1回キックオフ大会」を企画、開催いたしました。

当日、県下より一般企業47社をはじめ、公的金融機関2社、行政関係5団体、報道関係4社など多数の企業・団体にご参加いただき、総参加人数は117名と予想を大きく上回る盛会となりました。特に、NHKテレビほか3新聞社により事前・事後にわたり広範に報道されましたことは、中小企業診断士と協会の初めての試みとして、大いに注目され期待されていることの現われと、ひょうごオンリーワン総研会員一同身の引き締まる思いでありました。

本大会は、「元気プロジェクトに学ぶ, 元気な企業の条件」をテーマに、特色と元気を持ち活躍する元気プロジェクトの事例を学ぶべく、パネルディスカッション方式でおこなわれました。

コーディネーターには 甲南大学経営学部教授 西村順二様、パネラーには ながたTMO商業活性化事業部長(近畿タクシー株式会社社長) 森崎清登様、エム・シーシー食品株式会社取締役商品企画部長 田中政行様、NPOお笑い研究会会長 矢野宗宏様にお願いいたしました。

森崎様 「ながたの町おこしと地域の接着剤としての近畿タクシーの役割、その役割の発想法について」

田中様 「わが社の“ぼっかけ”商品開発プロジェクトについて。商品開発にはマーケティングも大切だが、自分たちが食べたい物を作ることが大切」

矢野様 「笑いが会社を変える。笑わせることで自分も元気になり、相手の懐にもとびこめる。会社全体で笑わせることを実践すれば、営業力がつく」

講演のあと、質疑応答をおこない、最後に西村教授に総括していただきました。

西村教授 「最近マーケット・インのマーケティングが主流であるが、プロダクト・アウトの考え方も重要である。3人のパネラーは自らの商品やサービスのもつ役割を明確にし、そして元気に発信し続けている。それが消費者の心を掴むポイントでは。」

本大会についてのアンケート結果によれば、「大変参考になった」「参考になった」が96%、今後について「今後も参加したい」43%「企画内容による」53%、と第1回としては一定の評価をいただけたと思われます。

ひょうごオンリーワン総研といたしましては、企業様のご期待にお応えするべく、今後とも内容の一層の充実をはかり「ひょうご元気企業交流会」を開催していきます。そして、兵庫県下から1社でも多く元気企業、ひいてはオンリーワン企業が生まれることを願いつつ支援活動を行なっていきます。

| | | |
|-------|--------------|-------------------|
| 今後の予定 | 平成15年9月 | 第2回ひょうご元気企業交流会 開催 |
| | 平成15年10月～11月 | 元気企業プロジェクト開発塾 |

(ひょうごオンリーワン総研についてのお問い合わせは、福島繁代表、井上雅晴・平野征夫副代表までご連絡ください。)

(文：奥村隆生)

委員会だより

「経営相談担当者」の募集

プロジェクト開発委員会

昨年より当支部では、兵庫県中小企業団体中央会様と連携して経営相談サービスを実施しています。(毎月2回、尼崎と姫路にて) ついては平成15年9月より平成16年3月の相談担当者を協会支部会員に広く募集しています。ご希望又は関心のある方の申込みをお待ちしています。

(1)開催場所と日時 尼崎会場：尼崎中小企業センター 505室：毎月第3火曜日 10時30分～15時30分
姫路会場：姫路商工会議所 402室：毎月第3木曜日 10時30分～15時30分

(2)申込み方法その他

申込みは当協会支部事務所へ。謝礼なし。交通費3千円支給。第1次締切りは9月10日。

会員研修委員会からのお知らせ

1. 新しい勉強会として、「企業内診断士の会」が発足します。

診断士の資格は取ったけれど、「企業内診断士」であるために、それをどう活かしていくのか判らなかつたり、今後どんな勉強をしていけばよいのか悩んでいた人達にとって、最適の勉強会です。

日時：9月2日(火) 19:00～21:00、場所：クリスタルタワー5FのB会議室で、設立趣旨説明と、今後の運営方法について相談のため、第1回会合が開かれます。「企業内診断士」の皆様、奮ってご参加下さい。

当面の世話役は、当勉強会立ち上げ準備に携わった「企業内診断士有志」の方をお願いすることにしていますが、会員研修委員会の大場・大森両副委員長も、側面援助を行うことになっています。

立ち上げの準備期間中に、いち早く情報をキャッチした「企業内診断士」の方々から、早々と参加申し出があり、前途は有望と見えています。

2. コンサル技法研究会が生まれ変わります。

従来、隔月開催でメンバー制をとらずに運営して参りましたが、一層の発展を期して運営方法を大幅に変更いたします。

(1)8月、12月を除く毎月第3金曜日(1月のみ第4金曜日) 18:00～20:00開催

(2)会場は原則としてクリスタルタワー5F又は6Fの会議室

(3)内容は従来通り、事例を中心とした「コンサルティング実務」についての経験交流と討論だが、長期スケジュールを組み広くPRする。

(4)年会費は2千円とするが、15年度は後期のみなので、1千円とする。

(5)メンバー増強のため、機会を捉え積極的なPRを行う。

3. 支部研修会が今年も開催されます。

10月6日(月) 18:00～20:00 神戸市産業振興センター903、904号室で、

講師は、株式会社かに工房 代表取締役社長 河村 徹教氏

テーマは、「デフレ下のマーケティング」です。この日は自主研究会を兼ねて開催いたします。

4. 実務研修会を開催いたします。

開催日は、10月4日、10月18日、11月8日の3回で、いずれも土曜日です。

時刻は、13:30～16:30の3時間で、会場は産業振興センター903、904号室です。

テーマは、第1回 診断士が現場で使える 新規客の見つけ方

第2回 " 新規客を得意先に変える方法

第3回 " 得意先と長く付き合う方法。

講師は、3回とも小川 勝夫副支部長です。

進め方は、講師が基調講演のあとコーディネーターとなり、受講生も参加しての討論会に移行するという、今までにない進め方です。大いに期待してください。



自主研究会抄録

4月度研究会

テーマ：実務と理論の重要性を痛感！『市場調査の実情と留意点』

講師：株式会社神戸新聞マーケティングセンター 企画調査部課長 小請 直子氏
 日時：平成 15 年 4 月 7 日(月) 18:00 ~ 20:00 場所：神戸市産業振興センター 902 号室

まずは、「アンケートだけが市場調査ではありません。お金をかけなくても調べられる方法は」に始まり、「設問の組み合わせに基づく具体的なニーズの探り方」や「択一式設問とクロス集計の関係」、さらには「パイロットテストの重要性」や「誘導や暗示の厳禁」など、“頭では分かっているつもりでも、ついつい...”といった事柄をノンストップで確認。

次には、「回答者へのお礼の品の検討から入力業務軽減までを見据えての、費用を抑えつつ効果をあげるための文字通りの実務的な手法の数々」或いは「在宅率や固定電話の減少といった調査業務をめぐる環境変化を踏まえての、新たな調査方法」と続く。

調査結果分析という最後のプロセスに関しては「仮説検証の成否という一大テーマ」に「サンプリング適正という原点の確認」を加えて、「データマイニングやテキストマイニング等の今日的な手法の紹介」で、結びをむかえた。

この春に母校である関西学院商学研究科マネジメント・コースを経て経営学修士となられ、研究と実務の両面を備えられた専門性から講義終了時に残されたのは、新たな調査を行うまでもない“本物の香り”。 (文：投石満雄)

5月度研究会

テーマ：『中小企業のM & A』

講師：大阪商工会議所 中小企業振興部 上谷 直己氏
 日時：平成 15 年 5 月 6 日(火) 18:00 ~ 20:00 場所：神戸市産業振興センター 902 号室

中小企業のM & Aは、大企業とは異なり報道もされず、事例も多くはない。だが、後継者難など経営資源が少なく、また経営環境の悪化する中で企業の成長・生残りのためにも、潜在ニーズは少なくない。

中小企業のM & Aには、世上障害が多いとされる。即ち 企業売却意思の情報洩れの危険が大きく、機密保持や情報開示のタイミングが難しい、譲渡企業の内容、特に財務の実態把握と簿外債務等のリスクと対策、相手の情報が入り難いし、仲介者等の報酬が高そう、等があり容易に手を出し難いと考えられる。

今回明快なお話して、こうした疑念は解消した。大商では1997年頃から会員企業の為にM & A支援の事業を実行し、神戸をはじめ主要な会議所も採用している。創始者として、しっかりした専門機関と提携し、仕組を確立し、優れた実績を上げ、ノウハウも豊かである。

今回心に残ったのは講師の、「M & Aも検討開始と交渉のタイミングが大切、多くの案件が決断遅れて成果が出ていない、中小企業診断士のタイムリーな助言を」と我々への期待を示された言。資料に使用した大商発行のハンドブックは参考になる。

受講者の反応は好評で、講師選択に当って、神戸大学大学院が組織する研究会で出会った最先端を走る人をマークし、地域のしがらみにとらわれなかった点で成功したかと思う。今後とも広い視野でテーマ・講師の選択を考えたいものである。

(文：千田徹夫)

6月度研究会

テーマ：『中小企業団体中央会の取組み』

講師：兵庫県中小企業団体中央会事務局長 内海 清治氏
 日時：平成 15 年 6 月 2 日(月) 18:00 ~ 20:00 場所：神戸市産業振興センター 902 号室

今回、兵庫県中小企業団体中央会の事務局長、内海清治氏から中小企業組合制度の歴史と現況および、これからの組合の組織化と活用、事例等について説明をうけた。要旨はつぎの通り。

組合は中小企業同士が互いに協力し助けあって経済的地位の向上を果たすためにつくられる。種類は事業協同組合はじめ商店街振興組合など8種類を数える。一番多いのが事業協同組合であり組合員の経営の近代化・合理化・経営活動の機会の確保を目的とする。兵庫県でみると組合合計数は平成 15 年 5 月現在 1531 あり、事業協同組合が 1276 で 83.3% を占める。その他は組合員の火災共済、資金の貸付・預金、商店街地域の環境整備等である。

時代の環境変化に対応して組合組織は変化しなければならないが対応できない旧組織も多くある。例えば平成 11 年の中小企業基本法改正により努力した者の自助努力が評価されるようになって商工組合が直撃を受けた。主たる事業の合理化カルテル、安定事業カルテルは独禁法に抵触するものとして排除され、組合事業指導教育事業だけが残った。

組合の設立は、最近では開発型が多くなっている。組合で開発発売しマーケットで収益をあげたり、生産活動の技術水準を高めようという狙いのあるようである。

最近の大きな出来事は平成 14 年 12 月の中小企業挑戦支援法の成立により企業組合に株式会社など法人が組合に出資できるようになったこと、組合が株式会社に組織変更できるようになったことである。そのため法人は企業内で組合を作ると 50% まで出資出来るので個人の出資と合わせベンチャー企業に有効活用できる道が広がった。成功すれば組織変更して上場することも可能という選択肢があるなど組合を見直す動きが広がりつつある。

(文：森 博人)



支部だより

1. 新入会員交流会について

平成 14、15 年度に兵庫県支部へ入会(他支部からの転入の人も含め)された会員を迎え、交流会が 6 月 16 日(月)開催されました。当日は 6 月の理事会が行われ、その後の約 1 時間半とわずかな時間でしたが、和やかな雰囲気の中で新旧会員の交流が行われました。新入会員、交流会参加会員は次のとおりでした。

新入会員 19 名の内 11 名(参加予定 12 名でしたが 1 名欠席)が参加しました。

旧(?)会員は 28 名が参加しました。(支部長以下、理事、委員会活動参加者を中心として)

総勢 39 名のにぎやかな交流会でした。参加の皆さんご苦労様でした。新入会員皆様のご活躍をお祈りしております。

2. 中小企業診断士更新研修について

8 月 8、9 日と 9 月 12、13 日は「更新研修」の日です。会員の皆様には、どちらかを選んで受講していただくこととなります。詳細内容・スケジュールにつきましては 7 月はじめに事務局よりご案内済みです。もし案内が届いていないことがありましたら事務局までご連絡ください。内容を確認した上で皆様の予定の中に繰り入れていただきますようよろしくお願い申し上げます。

「理論政策」は毎年の受講、「実務能力」は 1 回が 3 ポイントで、目標 9 ポイント獲得のため、計画的に受講しましょう。

総務委員会

新入会員自己紹介

皆様はじめまして、支部新入会員の 上村と申します。

勤務しておりました会社を昨年定年退職しましたが、中小企業診断士の資格が得られ、皆様方の仲間に入れていただいたことを大変ありがたく思っています。前職では、技術(金属材料が専門です)部門、製造(エンジン部品の加工です)部門に永年たずさわっていましたので、経験を生かしながら社会のお役に立てればと考えています。支部では広報委員にさせていただいてさっそく楽しく活動(まだ委員の方々の足を引っ張っているだけです)しています。中小企業診断士として出発点に立ったばかりですが、何事にも積極的に取り組みたいと思っておりますのでご指導下さいますようよろしくお願い申し上げます。

上村 隆夫 (59 歳) 住所: 〒655-0006 神戸市垂水区本多聞 6 丁目 24-14



中 小企業診断士としての抱負

この度、中小企業診断士となり、兵庫県支部に入会いたしました宮本哲也です。

現在、阪神電気鉄道(株)の経理部に勤務しております(タイガースが好調で、会社も活気づいています)。どうぞよろしくお願いいたします。

私は、早期の独立を目指していたわけではなかったのですが、何となく資格を取得してしまったというのが正直な心境だったのですが、いざ、資格を取得してみると、心境の変化が起きました。「何とかこの資格を活かすことはできないか?」ということを考えているようになってきたのです。と言っても、どのように活かしたらよいのか?ということ自体がわかりません。考えた抜いた結果、出た結論が、「診断協会に入会し、できるだけいろいろな会合等に顔を出す」ということでした。与えられた機会を最大限に生かしているんな所に顔を出し、先輩方のお話を聞いたり考え方に触れたりして、自分の実力を向上させていきたいと思っております。

若輩者ですが、今後ともご指導の程、よろしくお願いいたします。

宮本 哲也



平成15年度12月迄の各研究会スケジュール

● 自主研究会（責任者：吉住 尚史）

問合せ先：兵庫県支部 078(361)8034

| 日時 | 場所 | テーマ | 講師 |
|-------------------------|--|-------------------------|-------------------|
| 9月1日(月) 18:00~20:00 | 神戸市産業振興センター 902号室 | 診断士の使いたいBSC(バランススコアカード) | 兵庫県支部会員 松浦 敏貴氏 |
| 10月6日(月) 18:00~20:00 | 神戸市産業振興センター 903・904号室 | デフレ下のマーケティング(支部研修会を兼ねる) | かに工房 社長 川村 徹教氏 |
| 11月14日(金) ~15日(土) | 福井県視察旅行(三方五湖他1泊2日) ~ 若狭地方の「観光事業」についての研修 ~ | | |
| 12月1日(月) 18:00~20:00 | 神戸市産業振興センター | 特定調整について | 弁護士 橋本 真爾氏 |

● 助言技法研究会（責任者：大場 一正）

| 日時 | 場所 | テーマ | 講師 |
|--------------------------|-------------|--------------------------|------------------|
| 10月14日(火) 19:00~21:00 | 神戸市産業振興センター | 助言理論の展開(エグゼクティブ・メンターの内容) | 兵庫県支部会員 森 博人氏 |
| 12月8日(月) 19:00~21:00 | 神戸市産業振興センター | 未定(コーチングに関して) | 大阪支部会員 中上 義春氏 |

● 経営法務研究会（責任者：大西 一達）

| 日時 | 場所 | テーマ | 講師 |
|-------------------------|---------------------------|----------------------------|-------------------|
| 9月25日(木) 19:00~20:30 | 生活創造センター(神戸クリスタルタワー) 5階 A | 企業会計原則の実際 変わる箇所、変わらない箇所 | 兵庫県支部会員 大西 一達氏 |

● コンサル技法研究会（責任者：吉住 尚史）

| 日時 | 場所 | テーマ | 講師 |
|--------------------------|--------------------------|----------------|-------------------|
| 9月19日(金) 18:00~20:00 | 生活創造センター (神戸クリスタルタワー) | 与信管理と債権回収 | 兵庫県支部会員 白尾 嘉一氏 |
| 10月17日(金) 18:00~20:00 | 生活創造センター (神戸クリスタルタワー) | 民事再生法について | 兵庫県支部会員 石川 淳二氏 |
| 11月21日(金) 18:00~20:00 | 生活創造センター (神戸クリスタルタワー) | 成果主義賃金の構築のポイント | 兵庫県支部会員 大場 一正氏 |

● 診断技術向上研究会（責任者：大森 啓司）

| 日時 | 場所 | テーマ | 講師 |
|--------------------------|----------------------|-----------------------|--------------------|
| 9月17日(水) 19:00~21:00 | 神戸市産業振興センター 804号室 | Excelを利用したデータマイニング(3) | 兵庫県支部会員 石川氏、斉藤氏 |
| 11月19日(水) 19:00~21:00 | 神戸市産業振興センター | Excelを利用したデータマイニング(4) | 兵庫県支部会員 明石氏、大森氏 |
| 12月17日(水) 19:00~21:00 | 神戸市産業振興センター | Excelを利用したデータマイニング(5) | 兵庫県支部会員 松浦氏、永久氏 |

● 企業内診断士活性化研究会（責任者：大場 一正）

| 日時 | 場所 | テーマ | 講師 |
|------------------------|---------------------------|--------------------|----|
| 9月2日(火) 19:00~21:00 | 生活創造センター(神戸クリスタルタワー) 5階 B | 第1回：今後の進め方などの打ち合わせ | |

平成16年1月以降のスケジュールについては、ホームページをご覧ください。

編集後記

今回は、特に多数の原稿をお寄せいただき、編集者もうれしい悲鳴をあげました。

ところで、7月1日、全国の起業家を支援するプロジェクト「ドリームゲート」が本格的にサービスを開始しました。

(<http://www.dreamgate.gr.jp>)

個人的な話ではありますが、私自身この立上にかかわり忙しい日々を送っております。

このサービスは、経済産業省の後援、(財)ベンチャーエンタープライズセンターが実施するプロジェクトです。

従来の中小企業等支援センターとの違いは、「ぼんやりと起業を考えている人」もサービス実施のターゲットであること、「全国ネットワーク」であることです。

各地の中小企業診断士とも連携をとったネット時代の新しい支援のあり方でしょう。

わが広報委員会としても時代の流れを捉えて広報のデジタル化を推進しています。ご期待ください。(広報委員 宇田)